4月麻績村教育委員会定例会議 会議録

令和4年4月8日(金)
午前9時30分～
地域交流センター第3・4研修室

出席委員　職務代理　市ノ瀬淳一　　委員　小山正文
委員　宮下温子　　委員　小松小百合

出席職員　麻績保育園長　塚原京子　　麻績小学校長　佐々木英明
筑北中学校長　臼井伸明　　教育長　加瀬浩明
次長　臼井太津男　　主事　龍頭詩織

一　**開会**(臼井教育次長)

定刻となりました。令和4年4月の麻績村教育委員会定例会を始めます。よろしくお願いいたします。

二　**教育長挨拶**(加瀬教育長)

教育長:皆さんおはようございます。改めまして、この4月1日より議会の承認をいただき、村長より任命をいただきまして、新たに教育長として務めさせていただくことになりました加瀬浩明と申します。どうぞよろしくお願いいたします。私は生まれも育ちも麻績村なんですが、高校を卒業してからずっと外に出ておりまして、数年前に父親の体調が悪くて実家に戻りましたが、ずっと勤務が長野でありましたので、戻ったもののほぼ寝に帰ってくるくらいで、全く麻績村のことに対してご協力したりすることができずにおりました。今回、私は39年間教員生活を行ってきましたが、教員生活に終止符を打ちまして、麻績村の方でお世話になることになりました。今までの恩返しも含めてできる限り頑張ってやりたいなと思っております。よろしくお願いいたします。簡単にここまでの私の動きでありますが、大学を卒業してから4年間埼玉県で教員をやっておりました。長野県に昭和62年に戻りまして、そこからほぼ中学校の畑で勤務をしてきました。県の教育委員会に通算6年行きましたが、29年間は中学校ということで、小学校の経験もありませんし、当然保育園の経験もありません。さらに自分で心配だなと思うことは、勤務地がほぼ長野市でした。3年間だけ上田に出たことがあるんですが、特に中信の方には一度も勤務をしたことがないという状況で、当然松塩筑の方にも全く勤務をしておりませんので、学校の状況等に関して熟知していない部分がありますが、色々なところと連携を取りながら一つひとつ覚えて、皆さんにまたご指導いただきながら進

めてまいりたいと思いますので、どうぞ、力はありませんがよろしくお願いしたいと思っております。

・自己紹介

三　報告

臼井次長:それでは、報告事項に移ります。教育長報告をお願いします。

1．教育長報告

教　育　長:お願いします(以下、資料に沿って説明)。

臼井次長:ありがとうございました。只今の教育長報告についてご意見等ございましたらお願いします。よろしいでしょうか。それでは、続いて保育園長報告に移ります。園長先生お願いいたします。

2．学校長・保育園長報告

1）保育園長報告(塚原園長先生)

塚原園長:よろしくお願いいたします(以下、資料に沿って説明)。

臼井次長:それでは続いて小学校長報告に移ります。小学校長お願いいたします。

2）小学校長報告(佐々木校長先生)

佐々木校長:よろしくお願いいたします(以下、資料に沿って説明)。

臼井次長:それでは続いて中学校長報告に移ります。中学校長お願いいたします。

3）中学校長報告(臼井校長先生)

臼井校長:よろしくお願いいたします(以下、資料に沿って説明)。

臼井次長:保育園長、小学校長、中学校長それぞれからご報告をいただきましたが委員の皆様からご質問等ありますでしょうか。

小松委員:ありがとうございます。それぞれのグランドデザインとか、教育について色々お話を伺えてすごく感動しているんですけども、私たちは何十年も前のことですけど、学校に行って集団で一方的に授業を受けたと、学校ってそんなイメージだったんですけども、今は本当にそれぞれ保小中「主体的に」とか、「子どもたちの自主性を」とかそういうところをすごく大事にしていただいて、私も「子どもって自ら育つ力は本当に十分持っているん

だな」ということをすごく感じていまして、「そういうところを信じて大事にしていただけているグランドデザインができているな」と思いました。コロナがありましたので、なかなか人との関わりというところは難しい面はあると思うんですけれども、大体コロナの様子もわかってきましたので、これからは色々な関わりということで、先程も色々出てきました「縦割り」というような言葉、人と関わって地域と関わってとか、そういうところも「これから様子を見ながら徐々に深めていけるんじゃないかな」と期待しております。ありがとうございます。

臼井次長:ありがとうございます。他にございますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは次に移ります。

3．教育委員会関係職員及び非常勤特別職　委員について

4．今年度の教育環境施設整備予定について

臼井次長:続きまして 3 と 4 両方とも私のほうからご説明をお諮りいたしますので、私のほうで続けて説明をしたいと思います（以下資料に沿って説明）。3、4 につきまして何かご質問があればお受けいたします

臼井校長:教育支援委員会、中学校の特別支援 CO なんですけど、今年から西澤先生から宮尾先生に替わりましたので、宮尾由紀先生です。

臼井次長:はい。ありがとうございます。

臼井校長:それから中学校の給食調理室の関係で、3 月に前教育長さんに来ていただいて、給食運営委員会というのがあった時に、今栄養士が学校から調理に入っていくときに、一旦調理をしているところに入って着替えをしてからまた戻ってくるということになるので、「今年は私は外側から入ってしっかりとした入口から棟に入っていきます」というようなことを話をしたら、「そこの調理のところの改修だかそういうようなのがもしかしたら始まるかもしれない」というようなお話をしてはいただいたんですけど、そんな話はないですか。

臼井次長:今駐車場のほうから実際に給食の調理の先生とかはいってこられているじゃないですか。そこからの部分の、ということですよね。

臼井校長:なんか全部一緒に、ちょっとお金の出処はわからないんですけど、「国の関係とかそういうのを使いながらあそこのところを将来的には直していくんだ」というようなことをお話しいただいたんですけど。

臼井次長:入口の体育館のほうから、というかランチルームのほうから入る部分のところの、あそこに前室と言いますか作業スペースあるじゃないですか、あそこの整備とか空調というのは聞いたんですけど、そこのことじゃなくて全体を含めてということですか。

臼井校長:動線から言うと、栄養士が配膳のところから入っていって、そこで着替え

なり整えて、調理のところに入っていくそういう流れみたいなものをイメージしてお伝えしたんですけど。

臼井次長:わかりました。

臼井校長:ちょっとまた来ていただいて見ていただいて。

臼井次長:状況はわかっております。

臼井校長:今日明日という訳にはいかないと思うんですけど、そういうのがありますので。

臼井次長:はい。いずれにしても、中学校の調理室については大規模改修から 20 年経過しておりまして、小学校の調理室よりも調理器具よりもかなりまだ古いものを頑張って使っているというところもありますので、ちょっと根本的な考えがそこは必要かなと思っております。

臼井校長:そんなこと含めてまたよろしくお願いします。

臼井次長:はい。またよろしくお願いします。ありがとうございました。他によろしいでしょうか。

市ノ瀬職務代理:先程の教育委員会関係のところですが、子育て支援連携協議会のほうは今休止中なんですかね。

臼井次長:はい。連携協議会としてはということですね。

市ノ瀬職務代理:キッズサポート会議とかありますよね、そこら辺がここ 2 年ばかり止まっている状態というか、意味が良くわからないような開催の仕方であったりするということをちらっとお聞きして、「その連携協議会のほうがストップしているためなのかな」と思っているんですが、まあ少し早めにそこだけ。毎年 4 月にその関係の説明と言いますか、それで校長先生方や園長先生や集まっていただいて、村のコーディネーターのほうから年間の予定や「どういう趣旨でこういうことをやるんだ」という説明がされたと思うんですが、それもコロナの関係でしょうがされていないようなんですけど、そうするとそのキッズサポート会議もどういう風にやっているのか。あるいはコーディネーター、あくまで作業部会等をやっていたと思うんですが、そこら辺も開かれていないらしいんですけど、そうすると何をどう支援していくか、なんか今曖昧というかストップ状態のようですね。

臼井次長:確かに先生がおっしゃる通りということもありますので、実際の部分が正直、帰ってきてという言い方変なんですけど、帰ってきて見た中で、ちょっと指揮系統といいますか、その部分の組織としてのちょっと曖昧さが出ているようなところもあるので、それも合わせましてちょっと再度子育て支援の部分の組織作りと言いますか、組織の部分についてはですねしっかり確立していきたいかなとは考えております。大変申し訳ございません。

臼井校長:3 月の段階で作業部会に本校の西澤先生が来て、西澤先生キッズの関係では色々思いがあるので、「何かあったら行っておいで」と話して、「その後なんか校長が出ていって話をするような場面があればまた設置しても

らえばいいかな」というような話はしたんですけど、その後話がないから、そういう方向に行っているような気がするんですけど、でもスタートラインは話があるんですね。

市ノ瀬職務代理:毎年 4 月の 20 日前後にやっていたと思うんですけど、それはコロナの関係で止めになっているのか、「やりません」なのかどっちなのか。

臼井次長:コロナあってもなくてもそれはやっぱり子育て支援の部分のところでは必要かなというところもあるので、その辺作業部会的なのは保育園はどういう考えですか。

塚原園長:なのでその 3 月の時に話し合って、「どんな方向でやればいいか」というところまではいって、また次回集まるという話にはなっていて。中旬

臼井次長:それはコーディネーターが中心ですか。

塚原園長:コーディネーターが中心ですね。

臼井次長:中心じゃないといけないと思う。

塚原園長:もちろんそうですね。それでやり方において、以前の携わっていた人もいたので、それでそれぞれ小中保と意見出し合ってやっていたんですけれども、結局その時にたぶん方向性は決まらなかったと思うんです。「また次回集まって話をする」というところまでは聞いたんですけど、その次回の集まりがまだない状況です。それで新年度に入ってしまったので、一応キッズサポートとしては保小中予定はもう入っていますので、行うとは思うんですけど持ち方というところが。

市ノ瀬職務代理:ただ安曇養護の先生とかは予定されているんですか、そのキッズサポート会議には来るように、とか。

塚原園長:昨年度は来ていないので、そこら辺の計画段階というところが。

臼井次長:教育支援会議だけに来たということですか。

塚原園長:いえ、作業部会にも以前は来ていただいていました。

臼井次長:昨年度については、教育支援会議には来ていただいていましたか。

塚原園長:教育支援会議には来ていただいています。

臼井次長:教育支援会議にだけは来て、それでおしまいですね。

塚原園長:はい。まだちょっと打ち出されていない状況なのかなというところはあります。

教　育　長:再構築含めて整理していこう。

臼井次長:そうですね。ありがとうございました。いずれにしても、ちょっとそういう部分についてはあくまでも子育て支援コーディネーターという部分でいるわけですので、そこが中心となるべき姿と思っておりますので、ちょっと再構築含めて検討したいと思います。申し訳ございません。他いかがでしょうか。

小松委員:ここで出していい話なのかあれなんですけども、おみっこ元気くらぶと、放課後子ども教室、放課後子どもプランというところで括って良いのか、

今までコロナの状況で活動がほとんど難しいというかそういうあれではありましたけども、一応立ち上げに携わった身としては、すごく今の子どもたちに必要な力とか経験をいっぱいつけられるように、そう願って立ち上げの中で一生懸命活動を考えてきたんですけれども、やはりとても大事な活動だと思いますので、なんとか、状況色々難しいとは思いますけれども、今後も活動をなんとか続けて、活動していければ良いなと思うんですか、それで今どういう風にやっているんですか。

臼井次長:放課後子どもプラン、いわゆる放課後活動の中で、おみっこ元気くらぶだとか、水曜日にやっている放課後子供教室とか色々あって、「コロナの関係もあって」といっちゃえば全てになっちゃうんですけど、それもう言い訳にできないような状況になってきているので、あとは今まで信州大学の遊 YOU 未来に来てもらっていたんですが、なかなか学生たちも来られないということなんで、去年は確か麦だけはやったかなというところはあるんですけど、担当のほうで今年も計画しております。ですので、そんな中でおみっこのほうは進めていきたいと思っております。もちろん水曜日のほうの部分につきましても、できるだけ子どもたちの体験というところは進めていきたいと考えております。2 年前というかその前の話になるんですが、結局その土曜日のおみっこ元気くらぶとか何をやったら良いのかというところとかも色々考えて、信大の学生さんたちとも考えた中で、色々やってもだんだん参加する子どもたちが低学年が中心になってきて高学年がなかなか出て来られない形になると、ちょっとこちらが意図している部分とも少し外れてきて、もちろん子どもたちの体験というのはすごく大事なことなんですけど、安全見守りという部分が主になっちゃっているようなところもあって、「じゃあもう少しそれを親子参加型みたいな形にしていったら良いじゃないか」ということで、以前いた時には「親も一緒に遊びましょう」とか「楽しみましょう」というような形にしたんですけど、なかなかうまく浸透できなかったという部分もあったり、それからやはり子どもたちや親御さんが一番求めていたものを、なかなかニーズを捉えられなかったのかなというところはあるかと思います。ただ、ウォーターアドベンチャーだとか、通学合宿だとかというそういう人気があるものは非常に人気があったので、そういう部分でもまたニーズ捉えながら進めていければと考えているところであります。ですので、こういう状況になってきてできること、できないことってあると思うんですけど、逆にできることも結構あると思うので、それはちょっとまた検討していきたいと思うので、これは「やらない」ということではありません。

小松委員:はい。ありがとうございます。

佐々木校長:やっぱり信大生に依存している状態で、「コロナ禍で信大の活動が停止されてしまって来られない」「じゃあやらない」ってなっちゃうと、ほぼで

きない状態になっちゃっているので、確かに信大の遊 YOU 未来のその子たちが来てくれることはありがたいんだけども、その子たちが居なくても動くということを模索していかないと、やっぱりコロナで「ほぼできないぞ」というのがまた続くんじゃないかなと思っています。

臼井次長:ありがとうございます。他どうでしょうか。よろしいでしょうか。色々ご指摘いただきましてありがとうございました。できる限り、できる限りと言いますか、改善して実施していく方向で行きたいと思います。よろしくお願いします。それでは次に協議事項に移ります。

四　協議事項（加瀬教育長）

(1)　令和 4 年度取り組みの重点について

教 育 長:年度の当初ということで、それぞれ確認事項がたくさんあって時間が伸びてしまって本当に申し訳ないなと思っています。令和 4 年度は、私のほうで最初に申し上げた教育大綱の総仕上げで、次期のものを考えていかなければいけないということで、令和 4 年度としてある程度重点を決めて、それはまあこれから先に繋がっていくものという考え方で良いかと思うんですけれども、考えてみました（以下資料に沿って説明）。そんなことで、一応案ということで出させていただきました。ご意見を、ちょっと短時間ですが、いただいたり、また色々な所から逆に個別にどんどんいただいたりして、練り上げていきたいなと思っていますのでよろしくお願いします。

臼井次長:ありがとうございました。今の教育長からの話につきまして何か皆様からご質問等あればお願いします。

臼井校長:意見です。教育長さんのお話から、「0 歳から 18 歳まで」というところの「成人に至るまでをトータルして見ていく」というところは、本当に自分たちもその一部ですので徹底してやっていかなきゃいけないかなと思うんですけど、キッズサポートにも繋がると思うんですが、本当に生まれてから 18 歳までの子どもの把握というか、そこをしっかりと村の方というか、教育委員会だけじゃなくて、恐らく住民課になると思うんですけど、住民課の担当の方とかも入っていただきながら、例えば役場に中学生が 1 人来たとしたら「おお、あれ臼井君だわ」「中町にいるわ」ってくらい誰かが知っているような情報というか、良い意味で皆が知っていて「おお、来たんだな」みたいな感じのそういう村民が全員、そこまで入り込まれると嫌な方もいらっしゃると思うんだけど、そういうなんて言うか「あの子 0 歳の時はこうだったけど、保育園でこうだったけど、18 歳でこうなったな」っていうのがなんとなく皆が知っているようなものになってくると良いかなと思います。やっぱりキッズサポートの在り方というか、市ノ瀬先

生が立ち上げのところで色々と願いを持ってやっていただいたのをこの前聞いて「ああそうだったのか」と思うんですけど、現実そうではないので、そういう点で色々な所を整えていただければありがたいなかなと思います。

臼井次長:他いかがでしょうか。

佐々木校長:今の話のところですけど、キッズサポートの部分で、やっぱり各所でよく聞くのは「義務教育まではこういう支援体制が取れているんだけど、義務を出た後は福祉に繋がって変わっていくのか、そこで切れちゃう」というのがうんとあって、本村もそうですけれど、実は中学卒業した後高校とかの途中で止めちゃって家居になっちゃっていて、家に何もせずにいるような若者たちがたぶん数名いるんじゃないかな、そういう子たちを含めて支援をしていかないと、最後の「成人してさあ社会に出るよ」って時には閉ざされているというか。なので、今の教育長の話の「18 歳まで」というところも、やっぱり義務から繋いで大事にしていくというのが大事だなと思いました。

教　育　長:村独自の高校の奨学金みたいなのってあったっけ。

臼井次長:はい。高校の奨学金につきましては、基本的に就学についてなかなか厳しいという部分がありまして、その方については申請があった時点で月 2 万円ということで奨学金を出しています。もちろんそれは奨学金なので、本人に貸し付けて、親御さんなりが保証人になってもらって、本人に返してもらうという形なんですけど、それで状況がわかるというのもあるんですけ、佐々木先生がおっしゃられた通り、一番その高校生というところの捉え方が一番ちょっと今弱くなっているという状況です。うちのほうは地域の学校もあって、例えば高校行った子がおみ図書館に来たりとか、それからまた中学校に来たり、要するに中学校に来た時は例えば「学校で色々あって、中学校の先生に相談したい」というところだけの捉え方にしかなっていないという場合とか、後あるいは本当に剣道なり野球なりというそういうクラブ活動を通じて「あいつ何やってる」みたいな話だけの捉え方なので、それは体系的に捉えるような状況にはなっていないというのが事実ですね。ですので、本当に教育長が仰られるように、0 歳～18 歳までの途中の一番大事な所がぽかんと抜けているというところがあります。その捉え方については、私立学校については、「私立高等学校通学生徒補助金」というのを年額 2 万円という形で出しておりますので、そちらについて例えば各学校のほうに照会をかけた時に「実際去年までいたのに今年辞めてしまった」というようなそこでの把握はできますけど、そういう体系的な部分に捉えがち、そこだけに止まっているというのがありますので、そこら辺の捉え方、0 歳から 18 歳までの部分については非常に大事なことかなと思っております。一番最初の保小中一貫教育という部分につきましても、

義務教育というところでやはり当初考えていた部分もありますので、その中学を卒業する時に「心豊かで逞しい麻績の子ども」として育てて出してあげたいというところでいるんですけど、実際は成人年齢が下がったこともありますので、そういう形でやはりそのところの捉え方、どうやってサポートしていくかというのは非常に大切なことだなと思いますので、ちょっとそれも合わせて組織の練り直しの部分とか拾い上げの部分をちょっと検討していきたいと思います。ありがとうございました。他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、こちらの「令和4年度取り組みの重点について」という部分につきましては、教育長のほうで挙げていただいた令和4年度の取り組みの重点の案ということで、それに合わせた形で進んでいくということでよろしいでしょうか。ありがとうございました。それでは、次に移ります。

(2) 保護者との懇談会・意見聴取の在り方について

臼井次長:このことについて、3月の定例会につきまして、小松委員さんのほうから「例の件」というような話がありましたけれども、「それはどうなりましたか」ということで色々皆さんからご意見を出していただいて中で、実際的には正式な決まりということではないんですけど、昨年の7月に小学校のほうで行っていただいたような座談会のような形をですね、当時は一番最初なので教育次長が最初に説明をしてというのがあったんですけど、それを抜きにしてもう少し平たく意見が言えるような場所を、という形が良いんじゃないかというようなことで意見が出たと思います。実際この「保護者との懇談会・意見聴取の在り方」につきましては、声を大にされている方というのは個別にいらっしゃるという部分もあるんですけど、それが12月に行われた村長選挙の中での政策の違いみたいな扱い方も捉え方もされていたような側面があるので、そういうような部分について「どういう形でしていくべきなのか」ということをちょっとまた、教育委員会でここで決定することではないんですけれど、そんな形で一応議題に挙げさせていただいたというところでありますので、ご意見をお願いいたします。

宮下委員:昨年の懇談会にも参加させていただきましたけれども、考えてみたんですが、保護者が求めている懇談会というのは、学校の担任ではない先生方と自分と他の保護者を交えて子どもたちの在り方を話ができる会というようなイメージがすごくあって、「そういう会だったら出てみようかな」って思うような保護者さん多いと思うんですよね。統合の話だとか、麻績小学校がどういう風になっていくかというような議題をその時に話したいかというと、そうでもなくって、なかなか話す機会のない先生方と交流ができるような、そっちのイメージのほうが保護者の皆さん強いんじゃない

かなというところで、「教育委員さんもいるんだな」という交流みたいなところだったりしていて、さっきから子育てのコーディネーターの話出ていましたけど、「実際コーディネーターは誰なのか」とかという風に周知されているのは今ほとんどない状態で、正直言いにくいですけど、ちょっとこう 2、3 年前の体制とちょっと変わってきちゃっているのかなというのはそこでも感じていて、「どこに相談したら」というのは「直接もう学校に」という風に、雰囲気になっているような気がするので、「ざっくり話そう」というのもわかるんですけど、どういうニュアンスかというのをやっぱりもうちょっと保護者のほうにキャッチしてもらえるような会のほうが人数も集まるんじゃないかなと、意味のある会になるんじゃないかなと思いました。去年も、評議員、役員さんだとか 1 年生ですかね、新入学してきたご家庭の方が割と多かったのかなという顔ぶれだった思うんですけど、今年度もそんなような雰囲気の集まりになるんじゃないかなと予想しています。なんて話したら良いか難しいんですけれども、会自体はすごく良いことだと思うので、求めていることとイコールになっていくような会になった方が良いんじゃないかなと思っています。

臼井次長:ありがとうございます。他いかがでしょうか。

小山委員:今宮下さんが仰ったように、こういう会やるとしたら保護者の方が役に立つというか、望みたいという会でないと一部の政治的なような話で、教育長が仰られたような「学校統合どうするんだ」とかそういうその政治的な話だけでやるのでは、やっぱり一般の保護者の、特にお母さん方はあまり望まないかなと、あまり足が向かないかなと気もするんですけど、その辺のところを、教育長さんもお代わりになったところで、平たくというか気軽に集まれるような形でいくのがかえって良いのかなとは思いますけどもね。その中で声を大にして自分の主張を言われる方がいれば、それは若干ブレーキをかけながらやるというのが良いのかなと思います。

臼井次長:ありがとうございます。他いかがでしょうか。

佐々木校長:小学校は一番なので、今の話の、昨年は「教育委員会説明をしろ」という中で「統合のことについて」ということや「『保小中一貫』ということを何やっているんだという説明をしろ」ということで次長さんに保護者の前で説明会 10 分程度をしていただいて、その後座談会ということで色々な子育てに関わる話題や ICT のこととか色々なことを、小テーブルに分かれてワールドカフェ方式で違うテーマで 10 分間話し合ったら次のテーブル違うテーマに行って、3 回別々のテーマのところへ行って話し合うという会をやったんです。その時に、一番はそうじゃなくて、本当は当時の会長さんとしては、「統合どうするんだ」とか、「ちゃんとはっきり説明しろ」とかそういう思いがあって会を開きたかったんですけれども、でもそれじゃあということで、そういうところは抜きにして、そういう部分とすると

「これからの麻績の子どもたちをどう育てていくか」みたいなテーマに変えて一応やったんですよね。それ自体は教育委員さんにも参加をしていただいていて、本当に我々職員、教育委員、保護者が一緒に小グループで話し合いするなんてまず聞いたことがない話だなと思って、これ良かったなと思うんです。昨年度の PTA 活動、これしかないというくらいだったので、1 つの成果として「本年度もやろう」ということで一応いるんですけど、新しい会長さん、副会長さんは実は昨年出ていない方で、そうなると誰も出なくて役員さんだったって話で、「私は今年はやるつもりはありません」って会長さん初め仰ったんですけれども、やっぱりなんらかしらの会や、中身は出て良かったと思うので、「やりましょう」ということで、一応開催する予定でいます。ただ、学校としてはやっぱりその統合云々の話ではなくて、本当に今のお母さんたちの悩み事を一緒に話し合うとか、そういう形で楽な会にしたいなって思っていて、統合問題は一切出さない。できればそれは説明会、ここでやるっていう 2 月に話をしていた部分で、それはそれとしてやってもらって、お願いできればなと思っています。たぶんやっても集まらないとは思いますけれども。

小松委員：教育長さんも首長も代わったところなので「こんな方向で」という、どこかのなんかの機会とかで言っていくのも良いのかなと思います。

宮下委員：今年度の PTA 会長さんもそういう発言知らなかったので、ちょっと私だけが「良い会だ」なんてさっきは言ってしまったんですけど、保護者の方がどう思っているかというところですね、私はこの２年間で ZOOM にやっぱりもう慣れていて、保護者のコミュニケーションない中で、保護者のコミュニケーションというような会というイメージで考えていたんですけど、そうじゃないパターンも多々あるのかもなとちょっと聞いていて思ったので、やる、やらないは、毎年やっていくのか、色々な切り替えのタイミングでやるのか、というのは保護者の方たちに聞いてみても良いかもしれない、というのもありなのかなと感じました。

臼井校長：これから子どもを育てていく 0 歳からの保育園の人とか保育園にいらっしゃる方とか、そういうこれからの人たちにも同様の考えを伝えて、「統合ありきじゃないですよね」というような雰囲気をやっぱり作っていくということは大事かなと思います。中学生はもうこの状況なので、そんな「統合、統合」という風に言っている親は恐らくそんなにはいないと思うんで、これからの世代の方にまた伝えるときがあるかなと思います。別の観点で、今宮下委員さんがお話していただいたことに繋がるかなと思うんですけど、具体的に言うと特別支援学級の運用というか、うちのところの運用は、お家の方のこの 1 年間のお話を聞くと、「特別支援学級に行くと勉強が出来るようになる」というような雰囲気をうんと感じます。大人数で、大人数じゃないんですけど、「20 人近くいるところよりも個別に教えてもらう

とわかるようになる」というようなことを、担任を通して聞くことがあるんですけど、でも特別支援学級の目的というのは、そういうこともあるんですけど、そこを通してやっぱり自分で自信を付けたり、教育長さんが言った自立に繋げていく教室であると思うので、そこのお家の方への啓蒙というか、自分は「学力ってこういうことですよ、生きる力ってこういうことですよ」というのは去年はなかなか言うことができなくて、やっぱり結局「こんな良い子なのに、こんな挨拶もできて、掃除も丁寧にやるんだけど、テストの点数が何点だった」というところで最終的に着地点になっちゃうような雰囲気があって、そういう点についてはお家の方にもやっぱり「こういう子どもを育てていきたい」というような、「勉強はできた方が良いとは思うんですけど、そうじゃないよ」というところをやっぱり保護者に伝えていきながら、子どもたち自信を持って「将来麻績で頑張っていくぞ」とか「外で頑張るぞ」というような子どもが育っていけば良いかなと思うので、やっぱりそういうところは学校で啓蒙というか、色々な所で伝えていく必要があるかなと思います。どちらかと言うと「勉強は学校に任せる」というような雰囲気があって、逆に保護者が知識を持ってくるとクレームがいっぱい来て面倒臭くはなるんですけど、でも1年通してそんなになんか色々「ああしろ」「こうしろ」という風にないのは逆に言うとあまり関心がないのかなと思っちゃうような、とても対応が楽なんですけど、そういう点でお家の方と一緒というところで、そっちからも種撒いて行かないといけないかなと思いますし、どんどんと職員と保護者がコミュニケーション等図って子どものこと見ていくというのが大事かなと思います。

教　育　長:議会で絶対出るよね。

臼井次長:そうですね。

教　育　長:私代わっているからきっと質問されると思うので、そこをまず。

臼井次長:そうですね。実際に今までの中で、議会の一般質問等でやはり議員の皆さんも非常にその部分が質問が今まで過去にもありました。そこの論戦というのはやっぱり「教育をどうするか」、「教育の中身をどうするか」ということじゃなくて形式的な所なので、そこがやっぱり主になっているところで、それはそもそもその教育とかいう部分をこちらの教育委員会側が伝えきれていなかったというところがやっぱり一番はあるのかなとは思います。前まで議会事務局に居たので、実際に予算査定、令和4年度の予算査定のときに校長先生にそれぞれ来ていただいて、学校の話をしていただく、それで子どもたちをこういう形で今臨んでいて、その際に今臼井先生が言われたように、「学力だけではない子どもの力、それはこういう小規模学校だから一人ひとりに目が行き届いて、そういう形で本人が一番力を発揮できるような進学に繋がっている」というようなお話もあったんですけど、

それ聞いて初めてわかるような議員さんもいらっしゃいましたが、逆に言えば先程仰られたように「学力だ」という部分のところもあるので、そういうところはこれから色んな場を持って説明していくことが大事かなとは思っております。今度、議会定例というのが3月、6月、9月、12月と年4回あるんですけど、それ以外に議員さんたちの意見交換、意識の共有だとかという部分、それから村から定期的なご連絡という部分も含めて、定例会がない月に議会定例連絡会というものを作りました。今度4月20日にあるんですけど、その際は教育長のほうにも時間を取っていただきまして、議員の皆さんに今教育長のお考えとか、それから学校がどういう風に動いているか、もちろん卒業式入学式というのが議員の皆さんあるいは来賓の方来られてないので、そういうような状況を写真等プリントアウトして議会の皆様に情報提供する、そういうことも積み重ねが大事かなと思います。実際に今の教育長のお考えは、4月20日に議員の皆様にお出ししていけば今までのような感じにはなってこないんじゃないかなと私は考えておりますけども、いずれにせよ、とは言え選挙結果がああいう結果になりましたので、まだそういうような村内にもしこりがありますので、そういうところは機を見て説明していくことが大事じゃないかなとも考えております。すみません、ちょっとまとめになっていませんけど。

教　育　長:わかりました。ありがとうございます。

臼井校長:統合という点で、ちょっと自分同窓会をやって、自分のところよく考えてみると坂井村の方が当然OBというか同窓生として入っていて、坂井村の方にとってみると筑北中は当然自分の母校であって、坂井の子どもたちが聖南中に行くというところをすんなりと受け止められない方々も多いと思うんですよね。自分たちは麻績でずっと「麻績は麻績の筑北中学校だ」と思っているからあれですけど、卒業生の中にはそういう点で「筑北中学校が母校だ」と思っていらっしゃる方がたくさんいるので、そういう点で「統合、統合」という風に思っていらっしゃる方も多いのかなと思います。13日の方とはたぶん違うとは思うんですけど、そういう点でもやっぱり「統合」と思われている方もいらっしゃるかなと思います。

小山委員:筑北の議会も傍聴に行ったりしたんですが、筑北の議会の中では「統合」というような質問は出ないんですよね。結局「筑北小学校をどうするか」とか、そういう「村としての教育方針はどうだ」というので質問は出るんですけども、「麻績と統合は考えないか」とかというような質問は議員からも出てはいないんですね、今一般質問の中では。麻績と筑北の議会を両方傍聴すると、麻績は先程から出ているような感じで若干「統合」というような議員さんもありますけども、筑北行くと議員さんも議会の中ではそういう感じはないというか、薄れているというか、ないと言っても良いのかな。だからその坂井の議員さんもいらっしゃいますけど、そういう質問

出ていないんですよね。筑北村は前村長も今の村長も「筑北村独自の教育方針だ」ということを声を大きく言っていらっしゃいますから。

臼井校長：そういうところでは出ないですけど、「俺たちも頑張っているんだけど」ということは話の中で言っていましたので、そういう運動を進めていると、「統合」という訳じゃないけどやっぱり筑北中への思いというのはそれぞれ卒業したところへの思いがあるなと。直接そういう話はしなかったですけどね、筑北中統合、聖南が繋がるとかどうのこうのというのは、そんな大きな声で言う方じゃないんですけど、そういうなんか言っていましたので、そういうあれはあると思います。

佐々木校長：6 人じゃないですか、いつも言われるのが、「保育園の頃、どんどんと出ていってしまったんだ」と、「人が減っちゃったこの学年は出ていっちゃった」と。それで、それを「統合するということを前提に楽しみにしていた方たちが、統合しないということで出て行っちゃった」という言い方と、「今いる 6 人の中で、お家の方の転勤とか、県立中学等の受験で中学校進学を筑北中以外で考えている方がどうも複数いる」と、「それも、そういう教育が充実していないから出ていっちゃうんだ」ということもあり、「統合しなきゃダメなんだ」という論を仰っていますけど、2 人ほどそうやって「外を受けたい」と言っている子いるんですよ実際。でもそれは全然違うんですけど、でもまあそういう風に取られているんだなという感じですね。

小松委員：実際に外に出ていっちゃった理由は何ですか。

塚原園長：実際には、年長の時は特に「統合」とかというそういったところを心配されて出ていったわけではなく、家庭の事情で 2 家庭出ていったので、ちょっと保育園の時に少人数ではあって、初めは仲良くやっていたんですけれども、色々ちょっと役員の関係でトラブルがあって、1 人出ていってしまったというのもあったり、ちょっとなんなんでしょうね、お家の方同士の繋がりは薄いかな。本当にもうてんでばらばらという意識のほうが近いのかなと感じています。なので、「受験する」とか「他の中学を」という風に考えてしまうところもなんとなくあるのかなと、「みんなでわいわい楽しくやっていこうよ」という雰囲気よりも、「お互い干渉しないで」というところかな。

宮下委員：統合したいという理由に、たぶん保護者が何を一番思っているかというのは、部活動のことがやっぱり頭に最初に来ると思うんですよね。それを気にしてなのか、もうその今の小学校の保護者の方はもう先を考えていて、この 2 月 3 月あたりから中学でのバスケットボールの取組みなんかを保護者はキャッチしている方が多くて、社会体育のほうのバスケットボールに参加している 5、6 年生が一気に増えたんですよね。7 人くらいかな。うちはチビなんですけど、皆で参加させてもらっているんですけど、そういう

体制を見ていると、やれることは筑北中学でも今あるんだよなというところで、もう保護者が動いているような状況もあるので、悪いイメージがないというか、このまま上がっていくことに対して、という意味での動きなのかなと、子どもたちの活性化がすごく始まっているのが見ているんですけど。なので男の子だけじゃなく女の子もそういうような体制で今すごく盛り上がっているような、村のほうでもブレイブウォリアーズの方との連携とか、そういうものもひっくるめて「麻績村で」という風に考えている保護者の動きもすごく見えている状況ではあります。

臼井次長:いずれにしても、教育長もそういう形でとりあえずまずはお話を聞いてみてということもありますし、先程話にあった「実際に昨年やったものが良かった」ということであって、例えばそれをまた発展させて続けていくということ。それから村民の皆様のほうにもイメージとして何かこう「自分たちの声が上がらない」というような、「それを聞き入れてもらえない」という部分も、解消の仕方という部分も必要じゃないかなとことではあるかと思いますので、それを例えば議員さんへの報告とかという部分、それを多くしていって色々な中で「教育はどう動いている」「学校はどう動いている」というところの情報をある程度流していくことは必要じゃないかなとは思っておりますので、よろしくお願いします。ありがとうございました。それでは、その他に移ります。

五　その他

1）各委員から

臼井次長:各委員からということで、委員さんのほうから何かございましたらお願いいたします。

市ノ瀬職務代理:コロナがね3年目に入って、ここへ来て長野県でまた感染者が一番多くなったというようなことがあるんですが、空気としては国も県も経済面に重きを置いて、活動しながら今までの感染対策をしていくというような形ではっきりしないんですけど、とりあえずワクチンの接種を、1歳からですか、もう3回目をやるようにという話でいますが、この前話題になりました先生方、「他地区から通っておられる先生方に村のほうでワクチン余ったら打ってもらえるか」なんて話もあったかと思うんですけど、どうなりましたか。

臼井校長:この前養護の先生から話聞いて、「3人くらい打っていない」という話でした。それと、新しく来た先生が話して、「ちょっとインフルエンザのときに大変な思いをしたので、予防接種私はしていません」という方が1人いて、まあ後はなから広域とか市町村の関係で受けています。100％では

ないですけど。2回まではほぼ100%でしたけど。

佐々木校長:小学校は、やっぱり3回目に「ちょっと様子を見る」という職員が1名、「そもそもアレルギーがあって打てない」という職員が1名、「打ったか打たないかわからない」職員が1名いて、新しい先生方はまだ話をしていないのでわからないんですけど、そんな状況です。最も心配しているのは、小学生の接種が始まった訳ですけど、お家の方たちとちょっと話をすると「打たせません」「まだ様子見ます」みたいな反応で、積極的に「打ちます」という反応は、私が話をした保護者の間からは1件もないというのが現状です。「毎回10人ずつやっていく」という風に接種券が来て、予約が取れるように、麻績でやってくれることになっているんですけど、本当にPTAの方たちに聞いて「どうしますか」と言ってみると、「もう子どもが『副反応が嫌だからやらない』」と言って、「お母さんたちはどうですか」と言うと、「私もやっぱり子どもに将来影響が出たら心配ですよね」なんていう感じの反応ばかりだなと思います。

塚原園長:保育園職員は、1名はやはりアレルギーがあるので1回も接種していなくて、1名は自分の考えで受けていませんが、他はもう3回目は接種しております。お子さんに限っては、やはり「心配だ」というところで、私も聞く限りは「他の方が摂取した様子を見てやろうかな、だから今はちょっと様子見で申し込めない」という方が多く、悩んではいらっしゃいます。「もちろん打った方が良いと思います」とは言うんですけれども、そこがやっぱり心配のほうが強いのかなと感じています。

市ノ瀬職務代理:これといって何をやるという訳にもいかないですもんね。

佐々木校長:言えないからね。「打って何ともないよ」という情報が入ってくれば、「こういう風に言っていましたよ」ということは言えるんですけど、「打ってください」とは言えないじゃないですか。早くたくさん打ってくれないかなと思っています。宮下さんまだですか。

宮下委員:予約してあります。3月は卒園式の日だったんですよね。だったので、ちょっと忙しいかなと思って、翌日もちょっと予定があったので、でも「予約2日前にすれば打てる」というようなあらためてのはがきも届いていて、まあ皆打っていないんだなというのがそれを見てちょっとわかりますよね。

佐々木校長:接種日の問題もありますよね。最低でも2日間副反応が出るじゃないですか。だから本当は金曜日の午後、下校後に打ってもらえると、土、日で月曜日から来られるんだけど、平日なんですよね。意外と学校行事と重なっている。ここは誰も行かないよねみたいなのがあって、それが職員会でも「なんとかしてもらえないかね」と話はありました。

教　育　長:金曜日の午後ね。

佐々木校長:そうですね。

宮下委員:「6月過ぎから打つか」という人たぶん多いんじゃないかなと思います。
佐々木校長:まず様子を見てだな。
宮下委員:日がちょっと難しいかなというのが3月から続いています。
臼井次長:他委員の皆さんからいかがでしょうか。良いですか。ありがとうございます。では事務局からに移ります。

2）事務局から

臼井次長:事務局からは、特に先程の議会の定例連絡会において情報を流していくという部分につきましてはお話をいたしましたので割愛します。コロナの話で出たんですけれども、実は4月1日の教育長の報告にもあるんですけど、東筑摩郡の各村の教育委員会のほうにもご挨拶に行ってきた中で、山形村では実際学校お子さんに出てかなり広がったということがあって、山形村のほうの当時の教育委員会、教育長、教育次長のほうからも対応のお話を聞く中で、非常に身に染みたといいますか、実際にうちだったらどういう風な対応が取れるだろうと、逆に言えば不安になったというところもありますので、そんなことで今の話じゃないですけども、そういう形もしっかり確立していかなきゃいけないかなというところも、自分としては強く思った部分であります。特に事務局のほうからはありませんので、全体を通して皆さまのほうから何かありますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは次回の日程に移ります。

次回の定例教育委員会の日程　　5月6日(金)　午前9：30～

六　閉会（臼井教育次長）

長時間にわたり、ありがとうございました。以上で4月の麻績村教育委員会定例会を閉会します。